

第2回 徳島市音楽・芸術ホール整備推進有識者会議 意見概要

- 1 日 時 平成28年10月25日（火） 17:30～19:15
- 2 場 所 ホテル千秋閣 鳳の間
- 3 出 席 委員11人
- 4 議 題 新たなホール整備に向けての考え方
新たなホール完成までの方策

5 意見の概要

項 目	意 見 等
新たなホールの整備について	・ホールの規模は、市の人口や維持管理経費、稼働率なども考慮する必要がある。
	・客席規模を2,000席にするなら、1,200～1,500席でも利用できるようにホールの利用形態を工夫してほしい。
	・1館で1ホールは最も不経済である。小ホールやリハーサル室、活動室を備えるのが、全国的に見ても一般的なホールのあり方となっている。
	・文化センターでは、阿波おどり等の時には複数の会議室を楽屋として利用していたため、新たなホールでも、楽屋等に転用できるような部屋等も必要である。
	・ホールを建設する場所が決まらなければ、ホールの具体的な内容についての議論は難しい。
	・新たなホールは、創造活動ができる場として、日常的に利用できる施設にしてほしい。
	・新たなホールでは専門的な人材が必要であり、自主事業の実施や人材を育成することが重要である。
	・県市が協調して、大ホールと小ホールの整備を目指してほしい。
	・これまでの基本方針を継承するのであれば、基本構想・基本計画にかかる期間等は短縮できるのではないか。
新たなホール完成までの方策について	・文化センターの備品等を他の施設に貸すなど、何らかの方法で市民の利用を促進する方策を考えてはどうか。
	・仮設的なホールができると、それが恒久的なホールになってしまうことが懸念される。
	・鉄骨造のホールは、遮音性能や音響は良くない。